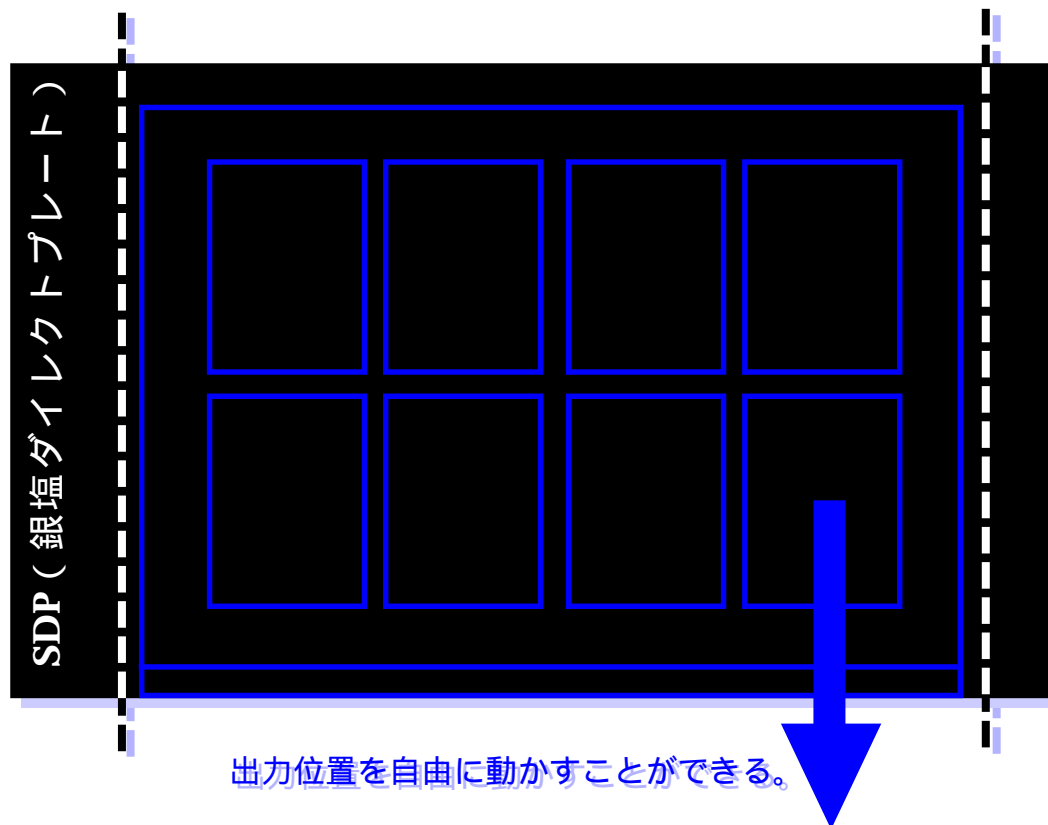


X-Plate から出力する時の「コツ」



出力位置を自由に動かすことができる。

バージョン3.0JのX-Plateはバージョン2.5JのL-Talkを引き継ぎ、押し進めた機能を持っています。マニュアルに加えて設定の詳しい内容について、改めて説明いたします。

< 1 > 「感材 / 用紙サイズ」とは？ ... 「出力設定」ダイアログ

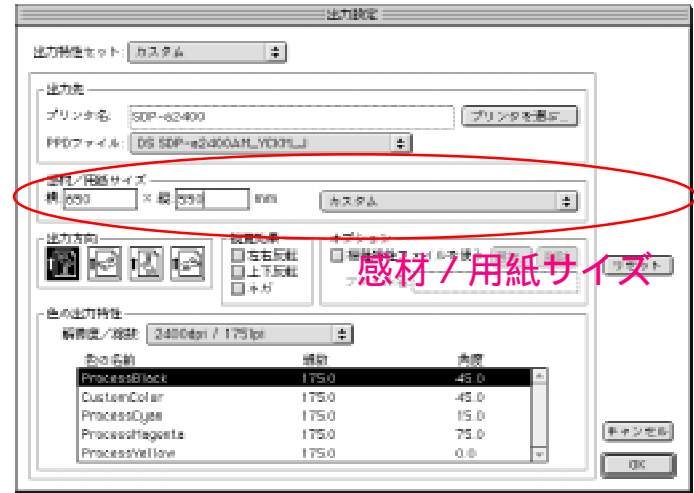
バージョン3.0JのX-Plateでは、「感材 / 用紙サイズ」設定を、出力予定の出力機に対応した「ppd」ファイルで行う形式になっています。また正確に値を入力したい場合には、カスタム入力もできます。

また出力機は、RIPが『機械にセットした感材サイズに対応した値（感材 / 用紙サイズ）』の実際の値を持っており、X-Plateで設定した「感材 / 用紙サイズ」はRIP内で照合を受けています。

もしRIPが持っている値（感材 / 用紙サイズ）よりも少しでも大きなサイズが来れば、出力エラーを起こして

「エラーメッセージ」にして答えを返してきます（X-Plateのlog画面に表示）。問題がなければ、作成した大きさの画像がそれよりも大きくても、配置（向き / 倍率 / オフセット）に合わせて出力されます。

従って、RIPの持つこの値（感材 / 用紙サイズ）に関しては、必ず把握しておかねばならないということになります。



```
.....
%%[ Error: configurationerror; OffendingCommand:
setpagedevice; ErrorInfo: PageSize --nostringval-- ]%%
%%[ Flushing: rest of job (to end-of-file) will be ignored ]%%
[11:12:25 AM] 出力終了。
[11:12:26 AM] 面付け終了。
```

< 2 > RIP の持つ「感材 / 用紙サイズ」の調べ方

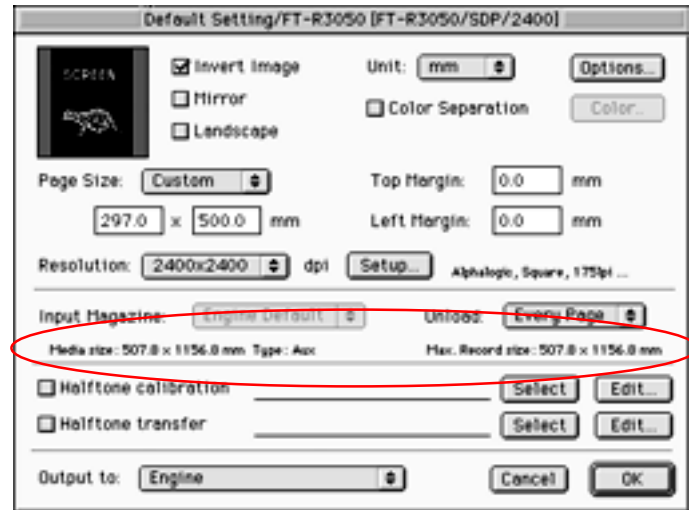
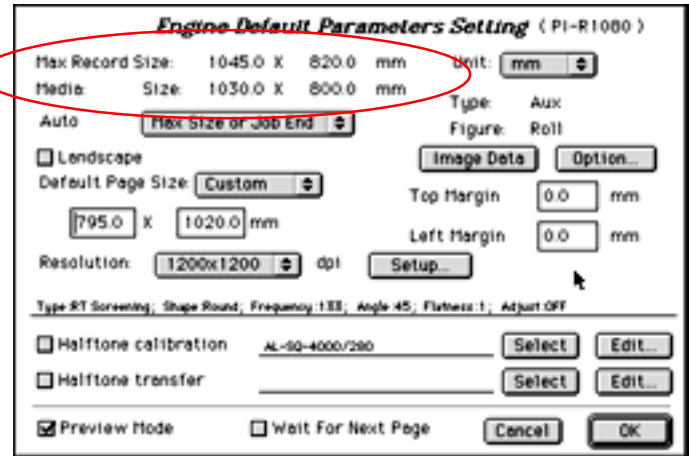
当社 C T P 出力機システム「 - 3 2 0 0 I I 」に採用されている、「AD - 3 1 0 P M」R I P を例に説明します。右上図の様な設定画面があります。この中に、下記の様な記述があります。RIP の持つ「感材 / 用紙サイズ」とは、「Media Size」の方です。当然の事ながら、装填する感材のサイズが変わればこの数字も変化します。

Max Record Size : 1045.0 x 820.0 mm
Media Size : 1030.0 x 800.0 mm

当社の別の C T P 出力機システム「 I P S - 2 2 0 0 T W 」に採用されている最新の「AD - 5 1 0 P M」R I P では、AD-310PM とは違う右下図の様な設定画面があります。この中にも、下記の様な記述があります。「Media Size」の方の値を使います。

Media Size : 507.8 x 1156.8 mm
Max Record Size : 507.8 x 1156.8 mm

サイズは、短辺と長辺というようにここでは考えます。



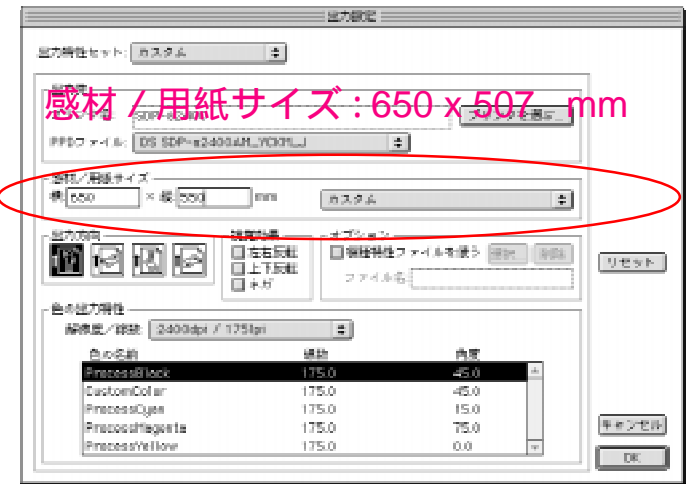
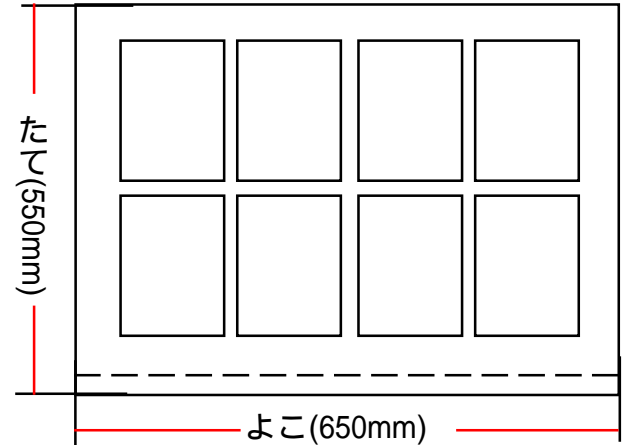
< 3 > 「感材 / 用紙サイズ」の入力 ... 「出力設定」ダイアログ

FACILISで作ったイメージ通りの「縦と横の関係」で、RIPの持つ数値を入力します。例えば右上図の様な「横:650」「縦:550」の印刷版を出力したい時、出力先のRIPの持つ「感材 / 用紙サイズ」が「507.8 x 1156.8 mm」であるIPS-2200TWである場合を考えます(数値は、エンジンの感材設定幅で変わります)。

FACILIS ver.3.0J X-Plat の出力設定ダイアログにおいて;

- ・出力先プリンターを選びます(セレクトで設定した環境と無関係に設定できます)。この場合は、「IPS-2200」をネットワーク上から選びました。
- ・IPS-2200用のppdを選びます。ppdファイルには感材 / 用紙サイズ以外に、スクリーン線数 / 角度など出力に必要なPostScript情報が各種含まれていますので、正しいファイルを選んで下さい。もし不明な場合は、プリンタ購入先に問い合わせして下さい。
- ・「感材 / 用紙サイズ」設定はFACILISで作ったイメージとは違い、「650 x 507 mm」を「横 x 縦」とカスタム入力します(「縦:550」ではなく「507」mm)。

この時に注意することは、RIPの持つ「感材 / 用紙サイズ」よりも大きな数値を入力してはいけないことです。四捨五入しても超えない安全な数値を入力してください。



< 3 > 「出力方向」の指定 ... 「出力設定」ダイアログ

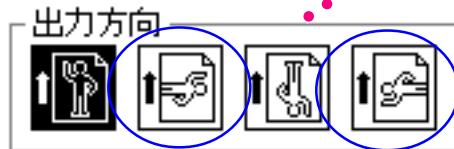
FACILISで作ったイメージ(レイアウトファイル)通りに、ここでは「横 : 650mm」「縦 : 550mm」を、**横長**に「感材 / 用紙サイズ」を「650 x 507 mm」とカスタム入力します。

もし実際の出力機が「横幅が507mm」「縦方向が650mm」と**縦長**であれば、**縦長**に「感材 / 用紙サイズ」を入力します。

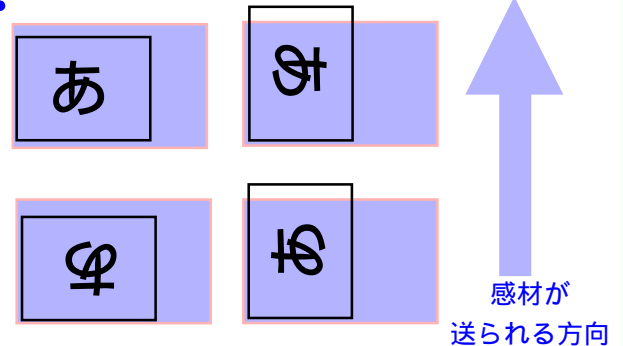
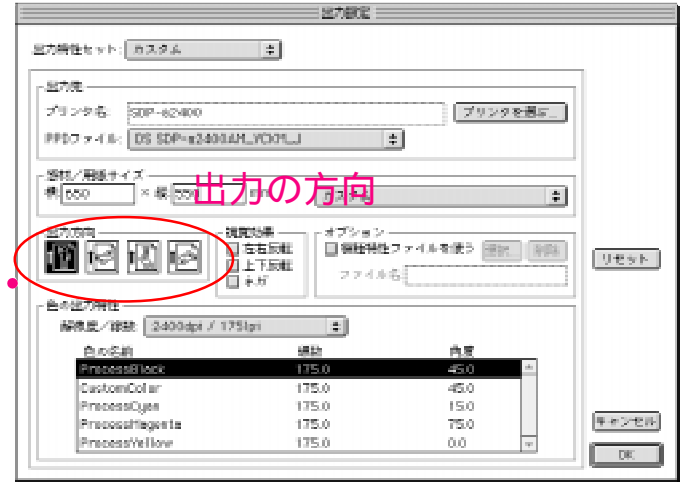
出力直前、**画像ごと「用紙」を自動的に回転する RIP (AD-RIP)** では、**縦長でもそのまま横長の入力でもかまいません。**

出力の方向は、画像の方向だけを変える設定です。用紙の方向は変わりません。**用紙の中の画像の方向だけが、変わる**というものです。

これはCTP出力を考えた設定で、例えばパンチブロックの位置関係で**180度ひっくり返す**事も可能です。正確な位置見当は、次に現れる「出力」ダイアログのオフセット調整で行なえます。



矢印は出力の方向(感材の動く方向)を示しています。画像だけが回転をします。



< 4 > 画像サイズ...「出力」ダイアログ

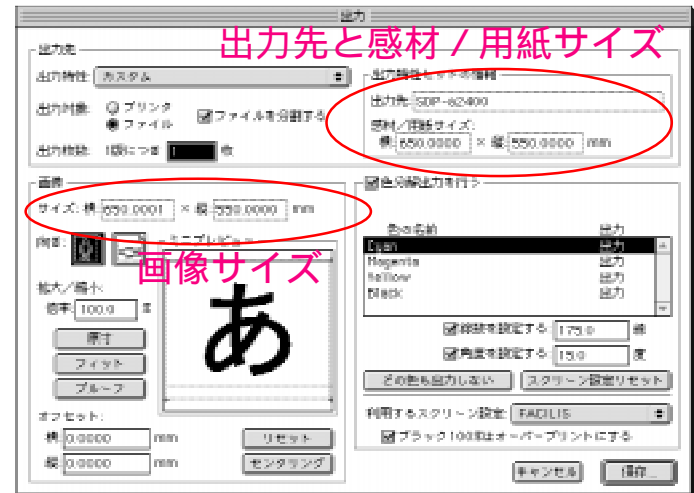
「出力」ダイアログでは、FACILISで作ったイメージ(レイアウトファイル)通りの縦と横の数値が、「画像サイズ」として自動的に表示されます。

一方「感材/用紙サイズ」は、出力先の表示に合わせて右上に表示されます。

例えば図の様に「横:650」「縦:550」の印刷版のレイアウトファイルを作った場合、X-Plateで入力した「感材/用紙サイズ」は「650 x 507 mm」ですが、「画像サイズ」は「650 x 550 mm」と、画像サイズの方が大きい関係になっています。

この場合等倍で出力すれば、感材からはみ出す形になりますが、エラーなくにそのまま出力します。

つまり、X-Plateで入力する「感材/用紙サイズ」はRIPの持つ「感材/用紙サイズ」すなわち「MediaSize」よりも小さいことが重要であって、出力したい「画像サイズ」はそれよりも大きくても構わないということです。

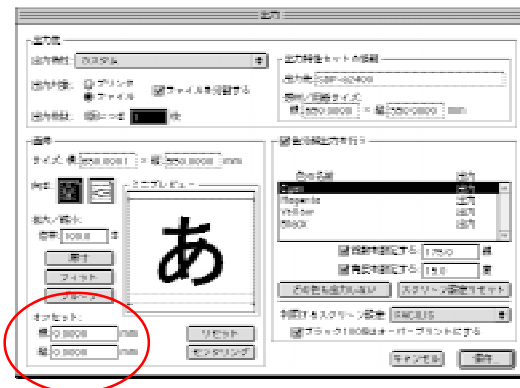


< 5 > オフセット ... 「出力」ダイアログ

出力位置を、上下左右に正確に移動させることができます。基準になる原点は、左下です。

この機能を使用することで、「画像の出力位置」を正確に合わせるすることができます。また、印刷開始点の異なる印刷機へ出力直前に変更されても、この「オフセット機能」を使うことで迅速に対応することができます (元のデータは変更不要)。

この様に FACILIS ver.3.0J は、CTP を意識した設計仕様となっています。



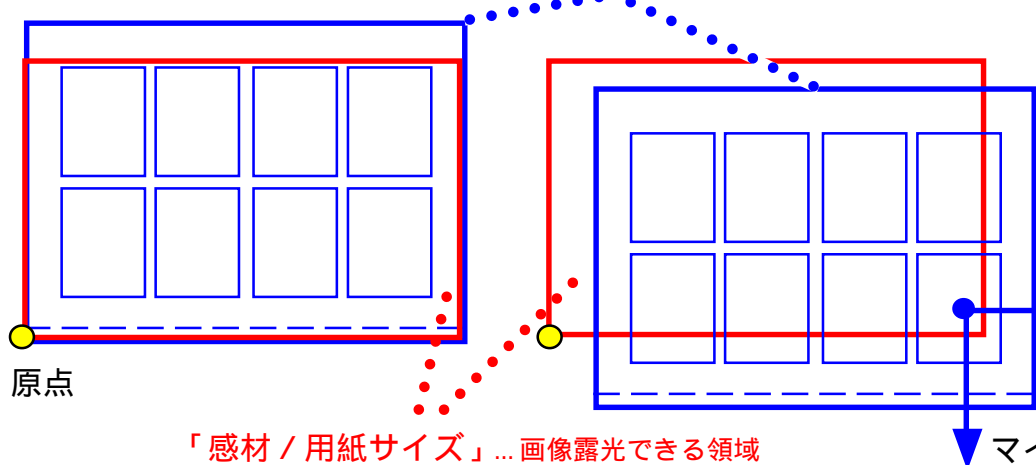
オフセット:

横: 0.0000 mm

縦: 0.0000 mm

現在オフセット値は保存できません。

「画像サイズ」...FACILISで作ったイメージ (レイアウトファイル)



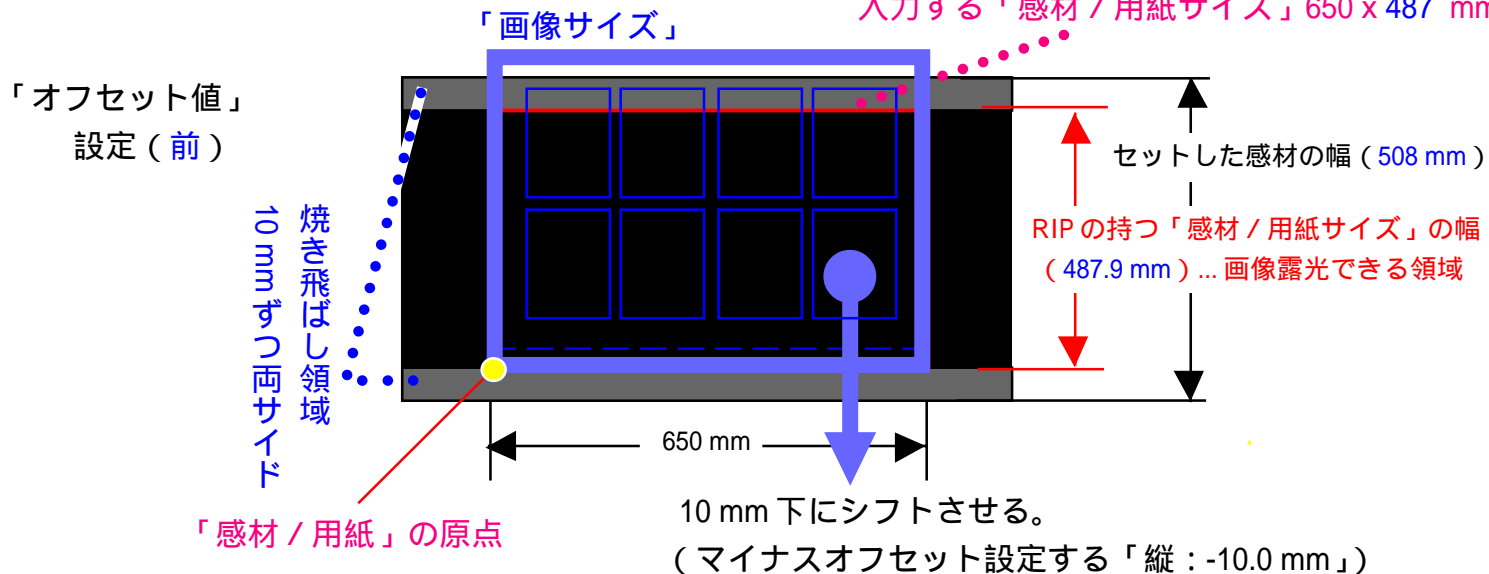
プラス/オフセット方向 (横)

マイナス/オフセット方向 (たて)

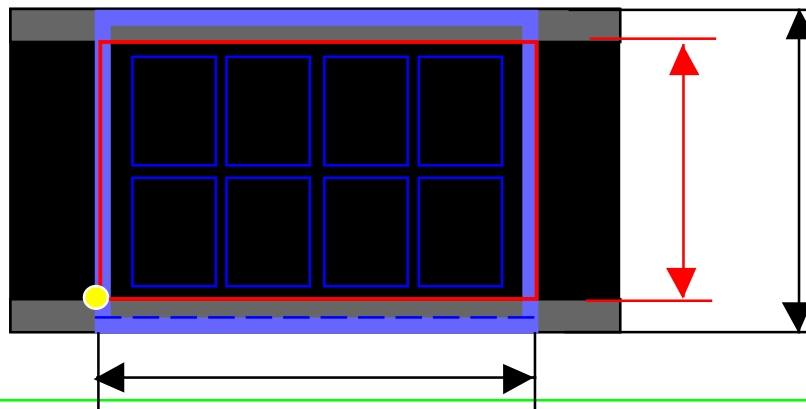
< 「画像の出力位置」を「感材/用紙」に対して正確に合わせる動きを、オフセット設定はします。 >

< 6 > オフセットの使用実例 (マージンが取られている場合)

入力する「感材 / 用紙サイズ」650 x 487 mm



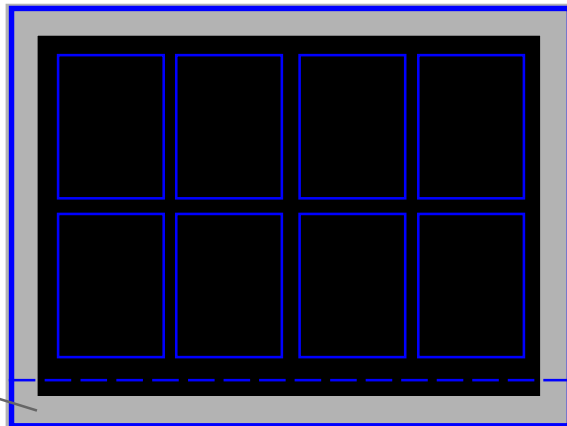
「オフセット値」
設定 (後)



< 7 > 印刷開始点の調整 (オフセット値で調整)

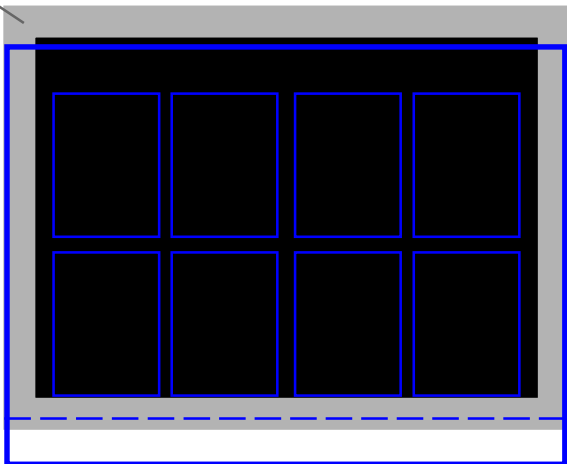
画像の動きを示したイメージ

印刷開始点
調整 (前)

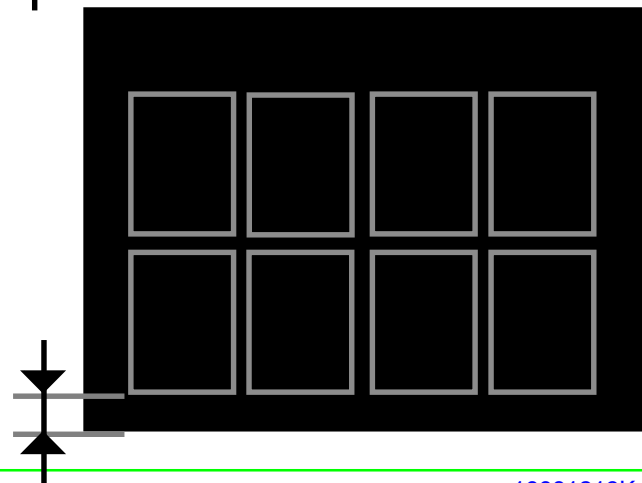
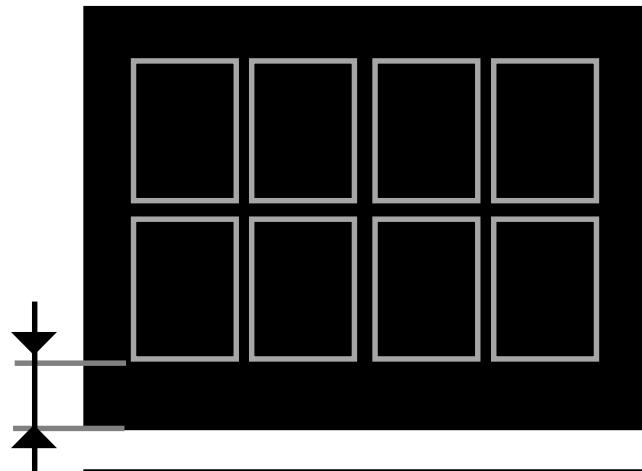


画像を出力で
きない領域。

印刷開始点
調整 (後)



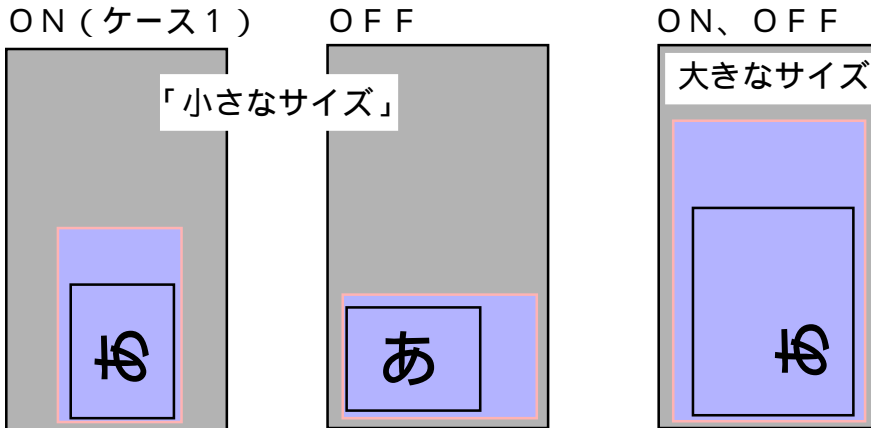
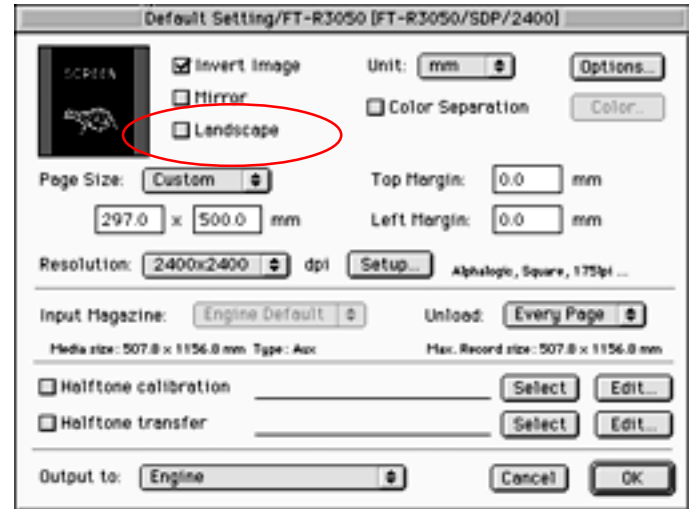
出力結果



< 8 > A D - R I P への出力

A D - R I P には、自動的に用紙ごと画像を回転させる機能が備わっていますが、設定通り必ずしも考えた通りにならない場合があります、使い方に注意がいります。

「Landscape」という機能です。「Landscape」の機能を「OFF (チェックボックスをチェックしない)」にした場合、送られてきたページを、「短辺は感材の短辺に合わせるように」自動処理します。また「ON (チェックボックスをチェックする)」にした場合、送られてきたページを、「長辺は感材の短辺に合わせるように」自動処理します。ただし、送られてきたページの長辺が、感材の短辺よりも短い場合に適用されます。



「小さなサイズ」では送る側の設定を、そのまま出力することがA D - R I P ではできません。特に、FACILISで小型印刷機用の版を直接出力する時に、たいへん困るケースです。どうしても(ケース1)になって困っている場合、AD-RIP用の対処を行えば、横向きに設定した用紙が、そのまま横向きで出力されるようになります(Landscape ONの時)。

FAQ「AD-510RIP#1」をお読みください。

< 例 > 350 x250 mm 「感材 / 用紙サイズ」 入力
チュートリアルデータ縮小配置
R I P 側 ; 「Landscape」 ON (チェックする)
結果 ; 横向きに出力

